





「水面が爆発した!」と思った瞬間、黒い巨大な物体が躍り上がっ た。ホホジロザメのブリーチングは息をのむほどの力強さに満ちて いた。ザトウクジラのブリーチングも迫力があるが、瞬発力という点 では、ホホジロザメのほうがまさっている気がする。例えるならナイ フのようにシャープな印象だ。

南アフリカにはホホジロザメが生息している海域がいくつかあ る。今回僕が訪れたのは、その中の一つ、ケープタウンからクルマで 約2時間30分ほど走ったガンズバイ(Gansbaai)という小さな町だ。 この町の沖には、シールアイランドと呼ばれる島があり、ミナミアフ リカオットセイ(Cape seal)が約50,000頭生息している。ホホジロザ メはこれらを餌にしているため、この海域に集まってくるという。

ホホジロザメのブリーチングを見るためには「デコイ」と呼ばれ る、木で作られたオットセイの模型をトローリングのように船から 引っ張り、ホホジロザメをおびき寄せる方法で行われる。野生の オットセイを襲うのを見るのは、かなり確率が悪いためだ。「デコ

イ」を使ったトローリングでも最初の ブリーチングまで50分くらいは時間 がかかった。その間、ファインダーを 覗いたまま、カメラを構えっぱなし だ。なにしろホホジロザメはいつ飛 ぶか分からない。もしちょっと気を抜 いたときに撮りそこねたら後悔して もしきれない。神経を張り詰めた待 機の時間は、ホホジロザメの出現で 一瞬にして破られた。想像以上に迫 力があり、まさに度肝を抜かれると いう体験だった。











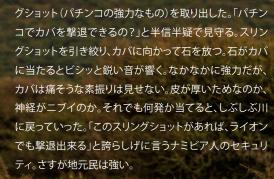




一般道で野良キリンと遭遇する

いる。国立公園によっては、プライベートカーで自由に野 生動物を見ることもできる。しかし、まさか普通の道路で キリンと出会えるとは思っていなかった。言うならば野良 キリンということだろう。クルマを停めて外に出ると、キリ ンがこちらをジッと見ている。キリンを驚かさないように、 そお一つとカメラを構えて写真を撮る。日が暮れようとす るナミビアの田舎道で、キリンと見つめ合った体験が妙 に印象に残った。

ボツワナのキャンプ場では、サイト内にカバが入ってき たことがあった。キャンプ場に面した川には柵らしきもの があるのだが、ところどころ壊れていて隙だらけ。アフリカ で野生動物に襲われる事故で一番多いのが、カバによる ものだという。カバは気が荒らいので最も危険とのこと。 ビビリながらも遠目から望遠レンズで撮影していると、カ バにギロリと睨まれた。その眼つきがものすごく悪く、 はっきり言ってメッチャ怖い。あまり近づくと本当にヤバ そうなので、セキュリティを呼びに行った。セキュリティの お兄ちゃんは、「ノープロブレム」と言うと、手製のスリン



夜、テントで寝ていると、近くでバキバキと大きな音し た。何事かと思ったらゾウが葉っぱを食べにきていた。 キャンプ場にはワイヤーの柵があり、電気が流れていて野 生動物は入ってこれないとのことだったが、本当にちゃん と機能しているのか。カバの例もあるし信用できない。結 局、そのうちにゾウはどこかに行ってしまったが、いねがて の夜を過ごすことになった。アフリカは普段体験できない 驚きに満ち溢れていた。

tsumi-shima We y f

















●国名:南アフリカ共和国 ●ビザ:90日以内の観光には不要。ただし、入国時に帰りの航空券が必要。●パスポートの有効残存期間:南アフリカ出国後30日以上の残存期間が必要。また残存余白ページが南アフリカ入国時1ページ以上(日本出国時に2ページ以上)が必要。 ●言葉:アフリカー ス語、英語、ズールー語等、11の公用語がある。 ●通貨:ランド(ZAR) 1ランド=約9.5円(2011年12月現在) ●時差:日本より7時間遅い。日本が正午の時、南アフリカは朝5時。 ●治安:特に都市部では十分な注意が必要。場所によってはかなり危険。 ●チップ:あり。レストラン、バーなどでは料 金の10%程度を。 ●電圧:220~240v 50Hz ●プラグ:南アフリカ独自仕様。(B3タイプに似ているがサイズが異なる)現地の空港等で購入可能。 ●水:水道水は飲めるが、ミネラルウォーターが望ましい。 ●アクセス:日本から南アフリカのケーブタウンへの直行便は運行されていない。経由便は様々なエアラインが飛んでいる ので、各経由地で乗り換えてアクセスが可能。東京発の例を挙げると南アフリカ航空の利用で、香港とヨハネスブルクを経由して約24時間、エミレーツ航空を利用しドバイ経由で約26時間。また、シンガポール航空利用のシンガポール経由で約24時間等、他多数。ケーブタウンからガンズバイまでは、クルマで約2時間30分。